2025(令和 7)年度

学校関係者評価報告書

学校法人 大阪明星学園
明星高等学校 ・ 中学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析	学校協議会からの意見
本校では教職員自己アンケート・保護者アンケート・生徒評価アンケートの３種類を実施し、教職員と保護者と生徒全員にＷＥＢ回答を実施しました。その中でも特徴的な項目について以下にまとめます。なお各学年および全体の回収率は 中学１年生　生徒　８１．２％　保護者　９８．４％ 中学２年生　生徒　６３．５％　保護者　９３．６％ 中学３年生　生徒　６０．７％　保護者　８７．２％ 高校１年生　生徒　７０．５％　保護者　７９．８％ 高校２年生　生徒　７２．１％　保護者　７６．５％ 高校３年生　生徒　７２．９％　保護者　６６．３％ 全　　体　生徒　７０．６％　保護者　８５．５％　教職員　８８．１％ でした。	（学校関係者評価委員会） 令和８年９月 26 日（土）　本校法人会議室にて委員５名　本校教職員６名にて開催
(1)教育理念について (設問１)の「建学の精神」(設問２)の「宗教的な取り組みを通して、神の愛、命の大切さに向き合う機会を提供しているか」という問いについての保護者の回答は、(設問１)（設問２）においても昨年と同等で、高い評価を得ました。 特に建学の精神は教員で最も高い評価項目の一つとなっており、学校の理念に対する理解は引き続き浸透していると考えられます。 一方で、生徒の評価は相対的にやや低めである傾向（昨年に比べどちらも０．１ポイント低下）も見られ、理念的内容の理解については今後も継続的な働きかけが必要であり、全校朝礼・宗教科授業・HR 活動など多様な場面を通じて、理念の共有を図っていくことが重要であると考えます。	(1) 教育理念について ・建学の精神に関し、他者に尽くす「地の塩世の光」の教えは生徒・保護者・教員三者に浸透している。 ・卒業生の保護者から卒業後に学校で学んだ宗教的な取組を理解、意識して行動する子息を見て学校に感謝しているとの話を聞いた。 ・引き続き「明星紳士」といったワードはあらゆる場面で積極的に取り入れてもらいたい。
(2)学習指導について (設問 4)の「授業時間数」は、生徒・教員ともに比較的高い評価であり（前年度比、生徒０．１ポイントアップ、保護者、教員は横ばい)、学習環境の基盤は維持されている。 一方で（設問５）「知的好奇心」は引き続き相対的に低い項目（前年度比、保護者０．２低下、生徒０．２低下、教員横ばい）であり、改善課題として明確に浮かび上がっている。学習内容自体は提供されているものの、生徒の主体的な興味関心の喚起にはさらに工夫が必要であると考えられます。今後もタブレット、パソコン、プロジェクターやＩＣＴ教室・多目的ホール・図書館のラーニングコモンズ等を活用し、各教員が個々の授業において一層の工夫をしながら、授業・教科・学年・学校の枠にとらわれず様々な課題の発見や解決に取り組むような活動を促すことにより生徒の知的好奇心を刺激し、評価が改善されるよう取り組みたいと考えます。 また、(設問８)「公正評価」は教員・保護者ともに高評価であり（前年度比、保護者評価０．１ポイント低下、教員横ばい）評価方法の定着が進んでいると判断されます。高校の指導要領の評価方法が観点別評価となり、４年が経過しました。この設問で教員の評価が他の全項目の評価の中で最も高かったことからもわかるように、評価の公平性を意識し、観点別評価のしかたも確立できているものだと考えられます。加えて、(設問１５)「進路指導」は保護者の評価はやや低下したものの（前年度比、０．１ポイント低下)、生徒の評価は横ばいでした。卒業生の合格座談会や生徒・保護者対象の大学進学ガイダンスや大学説明会、医学部進学ガイダンスなど前年度に引き続き熱心に生徒、保護者に働きかけができるよう取り組みました。(設問１６)「希望進路対応」は一定の評価を得ています。これは、大学の合格実績が前年度とほぼ変わらず、医学部医学科の合格者が現浪合わせて一定数確保できているところからこの評価につながっているのではないかと考えられます。しかしながら、保護者・生徒・教員の間に認識差が見られる項目でもあり、丁寧な情報共有や個別対応の充実が求められています。	(2)学習指導について ・知的好奇心が刺激されているかどうかの項目に関して、保護者・生徒と教員との間に依然として乖離が見られる。 ・一方で、学習課題や授業時間数の確保などの項目は三者とも高評価で量的な取組は評価されている。 ・知的好奇心と一見して遠いと思われる生活指導の項目が、教員と生徒の間で数字の連動が見られる。「大人の言うことと自分の実感が合わない」というシグナルの可能性も否めず、来年度は質問項目に工夫をしたり、教員間でのディスカッションなどにより原因の把握に努めたい。 ・主体性や人間性を伸ばす教育は、単に知識のみを身につける指導以上に大切であり、社会に出た時にリーダーとしての資質やグローバルに活躍できる素地になる。より具体的に知的好奇心を高める学習の機会を与えて欲しい。
(3)生活指導について 生活指導全体は概ね安定した評価であるが、(設問 11)「生活指導」(設問 12)「規範意識指導」(設問 13)「生活リズム指導」などにおいて、保護者と生徒・教員の間で評価に大きな差が見られま	(3)生活指導について ・教員の自己評価が低下している。社会背景もあり厳しい指導は合わなくなってきてい

す。これは、学校の指導方針の意図が十分に共有できていない可能性を示しています。

(設問 12)「規範意識指導」(設問 13)「生活リズム指導」の生徒の評価が前年度比、それぞれ０．１ポイントずつ上昇しています。わずかながら改善されています。社会規範を身に付けることや規則正しい生活を送ることの大切さは理解している生徒が増えているものの、本校の生活指導の方針について理解・納得ができない生徒がいるのも現実です。生活指導について学校の考え方を一方的に押しつけるのではなく、生徒会とも協力しながら生活指導の方針について生徒自身が理解・納得できるような説明と対話を継続していく必要があり、粘り強く取り組むことが大切であると考えます。

(４)施設設備関係

(設問 25)の「清掃・清潔」、(設問 26)の「施設面の充実」については、全体の中でも高い評価を得ており、保護者の「清掃・清潔」の肯定的評価は全項目の１位（「建学の精神」と同評価）になっており、保護者満足度の上位項目となっています。

また、三者間の評価差も小さく、学校全体として共有された強みといえます。

明星では、トイレ・廊下等共用部分の清掃は、業者に委託していますので、委託業者のおかげで高評価となっています。生徒には、自分たちが生活する環境を清潔に保ってもらっていることに感謝し、できるだけ汚さない・ゴミを出さないように、また、ゴミの分別を徹底する運動を生徒会活動を通して学校全体に働きかけました。今後も生徒会とともに、さらに努力をしていきたいと考えます。

(５)学校行事・クラブ関係・保護者会など

(設問 19)「クラブ活動」(設問 20)「学校行事の充実」は昨年に比べ生徒・保護者・教員はほぼ横ばいでした。「クラブ活動」に関しての生徒の満足度は前年度と同じポイントで、他のすべての設問事項の中で、昨年度と同様に最も高いポイントになっています。今年度の「体育大会」は新たな試みを行いました。高評価をいただきました。学園祭につきましても、今年度は同窓会からの出展やミニＳＬの出店などございまして盛況に終えることができました。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

(設問 24)の「保護者会」は、生徒のプレゼンテーションや報告など積極的に情報を発信しました。保護者の評価は０．１ポイント上昇し、高い評価を得ています。今後も、より保護者の求めている情報を発信できるようにしていきたいと思います。

(６)連絡体制・ホームページ

(設問 22)「家庭伝達」は出来るだけ紙媒体の伝達方法は少なくし、Classi の連絡機能やアンケート機能を学年主任や組担任が積極的に使用して、保護者へ情報を発信しており、今年度も保護者・生徒・教員で非常に高い評価になっております。(設問 28)「緊急対応」は全体的には高い評価を得ています。また、三者間の差も小さくなっています。(設問 23)「ホームページ」は昨年と比べて三者ともほぼ横ばいです。ホームページは、入試広報でもたいへん重要なツールでございますので、情報運営委員会を中心に創意工夫し、さらに充実したものになるようにしていきたいと考えています。また、今年度は前年度以上にＳＮＳの発信にも力をいれております。

(７)保護者・生徒・教員３者間の比較

全体として大きなマイナス評価は見られず、学校運営に関しては大きな課題や喫緊に改善を要するものは概ねないように思われます。よりよい学校運営に向けた課題をあげるとすれば、

以下の点が課題として挙げられます：

「知的好奇心」：全体的に評価が低く、重点改善項目。

「進路指導・相談対応・生活指導」：三者間の認識差が大きい。

一方で、

「清潔さ」「施設設備」「家庭伝達」「緊急対応」

は三者とも高評価で、学校の安定した基盤となっております。

特に、「知的好奇心」では、保護者・生徒・教員の認識差において、教員の評価が高い一方で、保護者や生徒の評価が低くなっています。この場合、教員から見えていない課題（例えば、教員が

るが、卒業生としては学生時代には、ある程度厳しくある方が社会に出た際に踏ん張れると思う。但し、情報が溢れている現代は、頭ごなしにするのはよくなく、生徒が納得・理解できるように説明する必要が大事であり、その辺を考慮した「愛」のある指導が望まれる。

（４)施設設備関係

・保護者からの評価は良く、清掃は行き届いており、綺麗に保たれている。

・教員から見ると老朽化も進んでいるとの指摘もあり、計画的な整備が必要。

・生徒会主導のゴミの分別運動もＳＤＧｓについて理解とともに、燃焼したゴミの量などを数値で把握出来たら猶更良いと思う。

(５)学校行事・クラブ関係・保護者会など

・学園祭は、生徒会が中心となり主体的に企画・運営し、多くの学びを得ている。

・部活動も他校に比べて積極的に取り組まれている。

・昔に比べて難易度は高くなっているが、是非、過去からの伝統である文武両道を目指して欲しい。

(６)連絡体制・ホームページ

・連絡体制は整っており、評価は高い。

・昨今、災害が多いので、災害時の緊急対応については、日頃からの実際の訓練が大事であり、消防署を呼んで訓練してもらいたい。

・ＨＰは充実しているが、入学希望者向けコンテンツのさらなる充実が望まれる。

(７)保護者・生徒・教員３者間の比較

・「知的好奇心の刺激」「生活指導」で生徒・保護者と教員との間で評価が異なる結果が見られた。同じ取組でも教員側と生徒側の受け止め方に差が生じることはありうる。認識の差が大きい項目については、単なる差だけに着目するのでなく、その原因を確認し、必要に応じて取組や伝え方を見直すのが重要である。

効果を感じている教材が生徒の関心を惹いていないなど）が存在している可能性があります。生徒と向き合う中で、その要因を確認していくことが必要であると考えます。 （8）その他 （設問 10）「支援体制」については、「わからない」という回答も一定割合存在し、周知不足が課題と考えられます。学校からの案内、配信をもっと多くしていく必要があります。「カウンセリングだより」は毎月、生徒・保護者へ配信しております。継続して保護者会での広報活動や classi などを用いた情報の伝達に努めてまいります。また、満足度のポイントの平均は、保護者・生徒において少し上昇しております。支援教育に対する期待もその分高まっているものと思われます。前年度より合理的配慮が私学の学校を含め民間企業で義務化されました。本校もＳＲ生徒が一定数在籍しておりますので、さらに配慮できるところは配慮していけるように、そのニーズにできる限り応えられるようにしていきたいと考えております。	（8）その他 ・アンケート結果のみから学校の取組を評価するのは限界がある。各設問に関連して、学校が日頃からどのような取組を行っているか、その内容や状況についても一定の情報共有があることで、結果を適切に理解することができ、より具体的で有意義な意見につながるのではなかろうか。